

## 分科会開催報告書

報告日 令和 4年 8月 28日 (日)	報告者 佐藤和広
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ 第二学習 吉宗と尾張藩主宗春の角逐⑤
開催日時 令和 4年 8月 25日 (木) 午前 10:00 時 ~ 12:00 時	開催場所 金沢公会堂第二会議室
参加人数 古文書を読む会会員 男 8名 女 2名 合計 10名 (欠席者 4名)	
<p>徳川宗春は第3代尾張藩主の十九男として生まれる。十九男なるが故に跡取りにはなれず、江戸の町にくり出しては芝居見学や遊郭で遊ぶなど、自由気ままな生活を送っていたが、兄弟の多くが早死や他家の養子となったりしたため彼が第7代の尾張藩主となった。吉宗の強力な緊縮・儉約の「享保の改革」で日本中が畏縮する中、これに反対し規制緩和、市場原理を実践する名古屋城下のみは各地から商業資本や娯楽が集まった。『夢の跡』は名古屋の繁栄を示す。</p> <p>『夢の跡』序 (作者未詳なるも側近の一人とみられている) “夫天地は万物の逆旅、光陰は百代の過客とか哉 (李白)。世の有様みなかくのごとし。西へ戻り東へ急ぐ東海道の南海に先走る平安国あり、此の土地のうるわしさに比べるに物なし。我が尾張国は衣食住に満ち足り、誠に日本第一上国といえたり。我が一生のたくわえもあるがごとく楽しむ、何かある度に筆まめに書きつけし記を夢の跡と名付く “</p>	
次回予定 令和 4年 9月 8日 (木) 10:00~12:00 場 所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：更級日記①	